



社会医療法人近森会

発行 ● 2012年3月25日

# びろっば

# 4

# Vol.309

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

新しく近森会で働くみなさんへ

## 未来を信じて

社会医療法人近森会理事長  
近森 正幸



### 近森会グループの概要

近森会グループは、全体で722床の大病院ですが、急性期である近森病院は338床、脳卒中と脊髄損傷対象で全館回復期リハ病棟の近森リハビリテーション病院180床、整形外科のリハビリを行なう近森オルソリハビリテーション病院100床、そして、精神科の専門病院である近森病院第二分院104床、精神障害者の在宅サポートセンターである高知メンタルリハビリテーションセンターで構成されています。

それぞれの病院がその機能を絞り込んで有機的に連携し、「患者さんを早く治し、早く自宅に帰っていただく」という、シンプルな理念で近森会グループ全体で医療にあたっています。

### 医師は医師にしか出来ないことを

近森会グループの各病院においても、それぞれの職種の機能をコア業務に絞り込んでチーム医療をすることで、医療の質と労働生産性を高めています。先生方の雑用や周辺業務を他の職種にやってもらい、医師は医師の仕事をするのではなく、医師しかできないことをしてもらうという考えで、医師本来の仕事に取り組みなければ、救急で搬入されてくる多くの患者さんに対応することはできません。

### 医療の高度化と高齢社会

21世紀に入ってから医療が高度化し、診断や治療の標準化が進んでくると共に、高齢社会の到来で手間にかかる高齢の患者さんが増えてきました。高齢者ほど骨格筋が乏しく低栄養や廃用が問題となり、早く自宅に帰っていただく大きな障害になります。また医療の高度化で、侵襲の強い治療が行なわれるようになり、高齢の患者さんには大きな負担となっています。

このような時代の変化に伴って、高度な医療機器や薬剤に対応する臨床工学技士や薬剤師が必要になり、栄養やリハビリの専門職である管理栄養士やリハスタッフが必要に

なってきます。このように、病院を取り巻く環境が大きく変わり、医師、看護師中心の少数精鋭の医療から多職種による多数精鋭のチーム医療を行なわないと、21世紀の急性期病院としてはやっていけない時代を迎えています。

### 質の高い効率的なチーム医療を実現するために

チーム医療を行なうにあたっては、医師、看護師をはじめ各職種の専門性を高めることが重要で、そのためには多職種がベッドサイドに出向き、患者さんを診ることが求められています。さらに理念や価値観を共有し、仲間意識をもつことが大事になります。患者さんに早く治してもらい、患者さんの笑顔がなによりも嬉しい気持ちをみんなでもつことが、チーム医療が成功する秘訣ではないかと思えます。

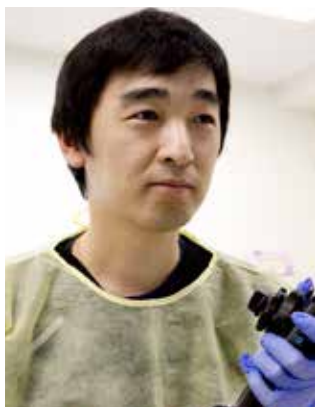
多職種がカンファレンスなどですり合わせを行ない、情報を共有する質の高いチーム医療と、業務の標準化で質を保ち、情報交換のみで情報を共有する効率的なチーム医療をうまく組み合わせ、病院の膨大な業務に対応しています。いま近森会は、時代の変化に対応し、多職種による多数精鋭のチーム医療で、良質で効率的な医療を展開しています。

### 21世紀の医療に対応できる病院グループに

近森会は2010年1月1日に社会医療法人となり、民間病院から公的な病院となりました。先輩方が救急で営々と実績を重ねてくれたおかげで、昨年5月には救命救急センターの指定を受けました。現在、近森病院の全面的な増改築工事が進行中で、新しい管理棟、外来センターが完成、4月には北館病棟も完成、そちらに患者さんに移ってもらうことで、新館の改築と新本館の建設を行なっていくこととなります。

2014年の春には新本館も完成し、3階の陸橋で外来センターと結ばれ、21世紀の医療に対応できるハードが完成することになります。この二年間は近森病院の診療の中枢に工事が入るため、患者の皆さんにはご迷惑をかけ、職員にはたいへんご苦勞をおかけしますが、未来を信じて頑張っていたいただきたいと願っております。

ちかもり まさゆき



## 超音波内視鏡下穿刺 吸引術 (EUS-FNA)

近森病院消化器内科科長  
近森 正康

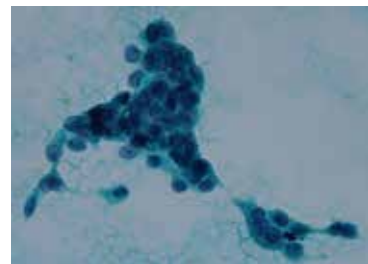
内視鏡の先端に超音波装置のついた超音波内視鏡検査 (EUS) は、主に消化管粘膜下の腫瘍や膵臓・胆道の良悪性疾患などの精密検査に用いられてきました。超音波内視鏡には観察専用のラジアル型超音波内視鏡、細径超音波プローブと、穿刺の可能なコンベックス型超音波内視鏡があります。

最近では、EUS で得られた画像所見

から診断するだけでなく、EUS で観察しながら、病変の一部を採取 (EUS-FNA) したり、治療をしたりする Interventional EUS が行われております。当院でも昨年よりコンベックス型超音波内視鏡を導入し、従来組織診断が困難であった膵臓の腫瘍性病変や粘膜下腫瘍の組織診断を積極的に行なっております。



超音波内視鏡画像。腫瘍に針を穿刺し、吸引して細胞を採取します



吸引して採取した細胞

これにより正確な病理診断を得ることにより、確定診断を行ってから治療方針を決定することが出来るようになりました。今後は急性膵炎後の仮性嚢胞の内視鏡的ドレナージや、胆道ドレナージなどにも応用していきたいと考えております。 ちかもり まさやす

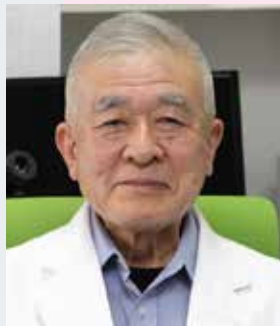
近森文庫は外来センターの新築および新館の改築に伴い①入院患者さんへの本の貸出、返却場所として新館5階 (2書架) と、②外来患者さんの閲覧図書 (4書架) として、外来センター2階待合室の2カ所に分離移転しました。

移転後、入院患者さんへの月間貸出数は漸増しており、文庫移転の目的が具現化しつつあるように思います。一方、以前に文庫を利用されたことがある退院患者さんから蔵書数が減ったというご意見をいただきました。

今回は「近森文庫」について、文庫の運用のすべてを担っている図書室司書・西川菜穂さんの資料をもとに説明させていただきます。

「患者さんのための文庫」の設置は図書委員会決定され、高知大学医学部の松田崇先生よりご寄贈いただいた多数の書籍を核として準備作業が始まり、平成20年7月1日にミニセレモニー (近森正幸院長、梶原和歌統括看護部長、川添昇管理部長の挨拶など) 後、開設され、患者さんの皆様には、次のようにお知らせしました。

### 一私の流儀 2回 患者さんの「近森文庫」



図書委員会委員長  
病理診断科部長  
えんざん ひであき  
円山 英昭

全蔵書数378冊)を常設することになりました。近森病院で治療を受けておられる期間に気分転換などにご活用いただければと思います。

以来、これまで3年8カ月が経過しました。文庫の書籍のすべては、患者さんに「憩いと癒し」の時と場所をご提供するという本院の趣旨にご賛同いただいた院内、院外、県外の皆様からご恵贈いただき、その総数は患者さんご自身から寄贈いただいた300冊を含め、2100冊、貸出後の未返却本は467冊で、文庫の蔵書数は現在1633冊、この間の貸出総数は1707冊となりました。

今後、文庫設立の意義を皆でさらによく考え、患者さんのお気持ちが少しでも明るくなるような近森文庫を目指します。

たび、「癒しの時間と空間の創造作業」の一環として、患者さんのための「近森文庫」(一般書を中心として分類、整理し、

### 4月の歳時記

#### ソメイヨシノ (染井吉野)

近森リハビリテーション病院2階東病棟  
看護師主任 武田 真珠



日本に400種類くらいの桜がありますが、ソメイヨシノは7割以上と数が多く、「さくらの開花予想」の基準にもなっているそうです。葉の出る前に径3~3.5cmの淡紅白色の花が咲き、満開の桜並木は圧巻ですよ。私は小さな頃から、家から見える桜並木を眺め春が来た!とウキウキしていました。家族や友人みんなで暖かい春を楽しみたいです。ね!

たけだ まみ



絵・総務課広報担当  
公文幸子

## 診療報酬改定について（2012年同時改定）



### あるべき方向に向かうための ビジョンを立て

診療支援部医事課長 佐々木 昭典

今年4月からの診療報酬改定は、全体の改定率を+0.004%として、微増ではあるが前回に引き続きプラス改定となった。

今回は「社会保障・税一体改革成案」が目指す2025年に向けての第一歩の改定で重点課題として引き続き「急性期医療における勤務医等の負担軽減」、加えて今回の改定が介護報酬との同時改定であることから、「医療と介護の連携」の二つが取り上げられている。

近森会グループはこれまで救命救急

医療をはじめ、リハビリテーション、チーム医療、地域医療連携を柱として医療を行ってきた。前回の改定に引き続き今回の改定でも、こうした近森会の柱の部分に高い評価が得られると期待している。

またDPC対象病院（DPC / PDPS：診断群分類番号に基づく1日当たり定額報酬算定制度）としては、このたび新設された病棟薬剤業務、感染防止対策や患者サポート体制などは、当院にとってはDPC / PDPSのなかで新たに機能評価係数へ取り込む事ができ、これまで以上の評価が得られると期待している。

こうした評価が得られるのは、ひと

えに医師、看護師をはじめとする現場の医療スタッフが、チームとなって日々医療に専念していただいているからこそであるといえる。頑張った医療機関には、その働きに見合う適正な評価が得られる診療報酬改定の仕組みが、これからもより構築されていくものと考えられる。

今後は、政府が描く2025年までの社会保障のグランドデザインのなかで、日本の医療の進むべき道筋をきちんと理解し、今後の診療報酬改定に対応していく必要があると考えている。

中、長期的な病院経営戦略として、近森会グループの目指すべき方向は何か。急性期から亜急性期、慢性期と、病院の機能と役割が再編されていくなかで、近森会グループの立つ位置を再確認し、あるべき方向に向かうためのビジョンを立て、改定に対応していく姿勢を継続して行きたい。

ささき あきのり

## 第93回地域医療講演会



### 日本版高度診療師（NP/PA）創設 によるチーム医療の推進

近森病院心臓血管外科部長  
入江 博之

り、今後導入されると各専門職の業務について大きな変化があるかもしれません。

最後に、「チーム医療の推進確立が必須である」と力強く話され、改めて



チーム医療の重要さが認識できる、とても有意義な時間となりました。

いりえ ひろゆき

2月21日（火曜日）、防衛医科大学校教授の前原正明先生をお招きし、「日本版高度診療師（NP/PA）創設によるチーム医療の推進」について、ご講演いただきました。

医師の指示を受けずに、ある一定の診療行為を行う「ナースプラクティショナー（NP）」、医師の指示下で医師補助として治療権限が広がる「フィジシャンアシスタント（PA）」といった、医療職の新しいキーワードについてお話いただきました。

こういった再就学を必要とする資格取得は、経済的、時間的負担が大きいといった問題があります。対案として厚生大臣が認定する「看護師特定能力認証制度」も検討されているとのことでした。看護師のみならず、他の医療従事者にも適応されていく可能性もあ

### ● ● 近森会保育所「そると」 ● ● ● ● ● ● ● ●

## お別れ遠足会

3月10日（土曜日）に、保育所「そると」のお別れ遠足会が西島園芸団地で催され、イチゴ狩りや摘みたての苺で、おいしいイチゴジャムも作りました。



## 患者さんやご家族の 思いを代弁するのは誰か

近森リハビリテーション病院  
看護部長 寺山 みのり



当院では、昨年6月の介護福祉士主任補佐の誕生を機に、「看護師と介護福祉士の協働のあり方」を、看護師長、看護主任、介護福祉士主任補佐が中心となり検討している。

協働とは同じ目的のために協力して働くことであり、「働」には、機能を発揮する、そのものとしての力が生かされる等の意味がある。

当院の介護福祉士は院内で多職種協働の経験を積み、看護師顔負けのリーダーシップを発揮する者も多いが、看護師と介護福祉士が互いの専門性（特性？）を認識、尊重し、それを生かして患者さんの目標を達成しているか、

と協働の原点に戻って考えることにした。

患者さんやご家族により近い立場からその思いを代弁するのは誰なのか、患者さんのやりたいことや、やろう、と思う気持ちを引き出して活動、参加を促すのは？、健康管理は？、などなど、在宅へと繋ぐ回復期リハ病棟だからこそ充実させたいケアがある。患者さんやご家族が、担当の看護師や介護福祉士を認識して相談できる病棟にしたい。

両方で担当した事例の検討会は6回実施し、ユニットごとの工夫も共

有した。記録やその他、直面する業務が論点となったり、「専門性の追求」という、どツボにはまる感もあるが、悩みながら、ぶつかり合いながら前に進む姿に、実践で培った底力（キラリ）を感じる。

協働は、目の前の患者さんに、私は何ができるのか、あなたは何かができるのか、と互いが確認しあうことから始まる。医療のなかで明確に分かれる役割もあれば、患者さんによって、専門職の能力によって、変化する役割もある。ひとりひとりの患者さんのケアを通して、自分の役割が見いだせることを期待している。

てらやま みのり

### 私の趣味

### お酒を楽しむ

近森オルソリハビリテーション病院  
6階病棟看護師  
池永 利江



趣味は色々ありますが、一番はやっぱり「お酒を楽しむこと」です。お酒は飲み過ぎると良くありませんが、気軽にいつでもどこでも誰とでも楽しむ事ができます。自我を捨てて感情を開放できる感覚がまた良くて、集団でのコミュニケーションツールとしても最適です。

ビール、焼酎、日本酒、ワイン、ウイスキー……、何でも好きで、その日の気分や食べたい物、その場の雰囲気や飲むお酒を決めます。逆に、今日はこのお酒を飲みたいので、これを作ろう、と献立をを考えるヒントになります。

酒場めぐりも大好きで、大衆的な居酒屋から正装で入るようなバーまで、高知県内では飽き足らず、東京都内、寄席やライブハウスの帰りに浅草、神田、有楽町、三軒茶屋、新宿、吉祥寺などを飲み歩いています。お勧めのお酒やお店があれば教えて下さい♪

いけなが としえ

※写真は自宅で飲み相手になってくれる愛犬。仕事帰りに飲む生ビールは最高です！

### Chikamori ★ Kitchen 16

## 菜の花とベーコンの クリームパスタ

すっかり春めいてきましたね。今回は春の食材、菜の花を使ったクリームソースパスタをご紹介します。菜の花はビタミンB2・ビタミンCが多く、疲労回復効果が期待できる他、女性に不足しがちな鉄・葉酸も豊富に含まれています。またこのパスタにはキャベツも使いますが、春キャベツは葉がやわらかく甘いのが特徴。ビタミンUを豊富に含んでおり、胃粘膜を修復する効果があります。旬の食材には豊富な栄養素が含まれていますね。

●菜の花とベーコンのクリームパスタ  
材料(1人分)

スパゲティ	90g
塩	適量
菜の花	3～4本
キャベツ	1枚
ベーコン	30g

<作り方>

菜の花とキャベツは食べやすい大きさに、ベーコンは5mm角くらいに切る。菜の花はさっとゆで、生クリーム・牛乳・コンソメは混ぜ、パスタは沸騰したお湯に塩を入れ、茹でる。

フライパンにバターと軽くつぶしたにんにくを入れ、焦がさないように弱火で香りを出してから、ベーコンを炒める。にんにくを取り出し、小麦粉を

臨床栄養部管理栄養士  
主任 内山 里美



振り入れ、だまにならないように混ぜる。混ぜながら生クリーム、牛乳、コンソメを少しずつ入れる。パスタのゆで汁で濃度を調整する。

キャベツ・菜の花を入れて火が通るまで軽く煮詰める。茹で上がったパスタを入れ、ソースと絡ませ、塩コショウで味をととのえる。

●クリームソース

バター	5g
にんにく	1かけ
小麦粉	大さじ1
生クリーム	大さじ2
牛乳	100ml
コンソメ	小さじ1/2
塩コショウ	適量
パスタのゆで汁	適量
粉チーズ	適量

うちやまさとみ

## 第2回近森病院・国立病院機構高知病院合同パス大会



## 経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TUR-Bt) のパスを対象に

近森病院泌尿器科部長  
片岡 真一



▲武蔵野赤十字病院のクリニカルパス委員会委員長・田中良典泌尿器科部長

2月26日(日)、第2回目となる近森病院と国立病院機構高知病院との合同パス大会を開催しました。

今回は、「経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt)」のパスを対象に討論いたしました。高知病院の会議室に117名の参加者があり、武蔵野赤十字病院からは、クリニカルパス委員会委員長の田中良典泌尿器科部長にも参加していただきました。

とくにリハビリテーション部の報告から、侵襲の低い手術といえども、より積極的な関与がADL、ひいてはQOLの改善に有用であることを学びました。



今回の発表を参考に日々の診療に役立てていきたいと思っております。最後に参加者および関係者の皆様、色々とお世

話になりました。ありがとうございました。

かたおか しんいち

## 職 ● 員 ● 旅 ● 行

沖縄 DFS の玄関で



▲沖縄の宿泊地「ブセナテラス」からのバスのなかで



▲シンガポール。「建物の上に船!!」あのマリーナベイサンズに3泊しました!



◀北海道ニセコヒラフ



司会と講師の高知大学医学部泌尿器科学  
教室教授の執印太郎先生

## 「お悩みはありませんか？ おしっこのことで」



近森病院泌尿器科主任部長  
谷村 正信

よき友くすし

22



### 薬剤情報にも電子機器の活用を



近森リハビリテーション病院  
薬剤部薬剤師 北川 玄

思った場合、情報源としてパソコンやスマートフォンなどの電子機器で、インターネットを活用する方法があります。

情報の発信源はさまざまで、製薬会社のほか、病院や薬局といった医療機関のウェブサイト、メールマガジン、最近流行のFacebookやtwitterなど、あらゆるところで情報の入手が可能です。内容も専門的なものから一般的なものまで幅広くありますが、記載されている内容の全てが正しいとは限らず、情報の信頼性について多角的に吟味する必要があります。また、宣伝と気づかれない形で広報を行っている場合もありますので注意が必要です。

その他、薬剤情報の管理方法として、お薬手帳の電子化の動きがあり、今後の普及が注目されます。

きたがわ はるか

皆さんはご自身が服用されているお薬についてどれだけの情報をご存知でしょうか。お薬には決められた用法や用量、薬効や副作用といった情報だけでなく、飲み合わせの問題やジェネリック医薬品に変更すると幾ら安くなるかといった薬自体の値段など、さまざまな情報があります。

ふとしたきっかけで、処方医や薬剤師から受けた説明以上の情報を知りたいと

高知大学泌尿器科同門医会が主催する市民公開講座を3月11日(日)に近森病院管理棟3階の会議室で行い、76名の市民の皆様方に出席していただきました。

この講座は泌尿器科同門医会の事業のひとつとして、高知県民を対象に2005年より全県下を移動しながら泌尿器科疾患の啓発活動を行っております(現在まで16市町村)。

摂食と排泄は、生物が生きていくために必要不可欠な行動ですが、人間が人間らしくあるためには、この行動は尊厳を持ったものでなければなりません。

今回、小生は「オシッコが近くなったら…」という題で講演いたしました。排尿が尊厳を持った行動として高知県民に認識され、健やかな老後を送る参考になったなら幸いです。

新しく立派になった会議室を利用させていただき、誠に有難うございました。

たにむら まさのぶ



### お弁当拝見 1

#### 困った時の お助けメニュー「三色弁当」

近森病院看護部長 久保田 聡美

出張続きで家事もさぼりがちな私ですが、毎日の食だけは大切に考えています。

写真のお弁当は簡単だけど、保育園時代から今も子供たちには根強い人気の三色弁当です。4人も子供がいると個性的な子もいて、色々と苦労しましたが、そんな時もお弁当だけはと続けてきました。

そんな母の思いも成長すると気づいてくれるようで、ちょうどお弁当の原稿依頼を受けた日に、一番苦労



した長男からメールが届いていました。なんだかお弁当の威力と縁を感じました。以下はそのメールの抜粋です。

「毎日3食美味しい御飯家族全員分



作る苦労、おかんはみんなが食べる分自分のだけ作るより楽言うけど、朝早くから起きて朝食と弁当作って、仕事で疲れちゅうに帰ってすぐ晩飯作ってくれて今更やけどすごいな思ってます。

未だにフラフラして先行き不安な自分をいつも応援してくれてありがとう。ほんとに尊敬してるし、大好きやし、おとんとおかんの子供で良かったです。手をやいた子供ほどかわいいものです。 くぼた さとみ

## 第 94 回 地域医療講演会

## 群馬大学における地域医療連携

近森病院救命救急センター長  
根岸 正敏



ご講演中の田村遵一先生

平成 24 年 3 月 16 日 (金)、群馬大学



医学部副学長で大学院医学系研究科総合医療分野教授の田村遵一先生を講師にお迎えして、第 94 回の地域医療講演会が行われました。年度末、週末にもかかわらず、多数の皆様のご参加をいただきました。

高度先進医療の提供や研究・学生教育を柱とする大学病院と急性期医療を展開する近森病院との違いにも触れられ、職員、参加者一同、とても興味深く拝聴させていただきました。

また、先生は臨床研修センター長も兼任されており、特に初期研修や専門医育成のあり方について熱く語られましたが、これからの近森病院にとって非常に有意義なお話でした。

当院は地域支援病院として、患者さんのための医療を展開してきましたが、先生の講演の中で「誰のための地域医療連携なのかを考えるべき」という言葉は、参加者全員の胸に響いたのではないのでしょうか。

ねぎしまさとし

## 石川誠先生講演会

## 量的整備から質的整備 へ向かうリハビリテー ション医療 ～リハマインドの必要性

近森リハビリテーション病院  
事務長 内田 陽子

平成 24 年 3 月 8 日 (木)「量的整備から質的整備へ向かうリハビリテーション医療～リハマインドの必要性～」と題して、医療法人社団輝生会理事長石川誠先生にご講演いただき、約 200 名のスタッフが参加しました。

石川先生の就任当時 (35 年前) の近森会の様子も交え、現在のリハビリテーション医療について分かりやすくお話いただきました。患者さんを「早く良くして早く地域に帰す」ためにチームアプローチは不可欠であり、そのチームの一員としての心得についてもお話くださいました。開設当時から変わらず近森リハビリテーション病院を支えるリハマインドの真髓が溢れ、参加したスタッフから「元気が出た」「感動した」等の声が多く聞かれた有意義な講演会となりました。

うちだ ようこ

## 院 外 エ ッ セ イ

## 土と水と風の匂いの菜園生活

野々宮 輝雄

仁淀川町 (旧仁淀村) 奥太郎田  
「奥の里」オーナー。  
お世話グループ「だんだんくらぶ」  
初代事務局長、現会員。  
昭和 15 年、長者奥の里生まれ。



「ハイ」という素直な心と

「ありがとう」という感謝の心で

六男おとんぼ (末っ子) が故郷の畑山を継ぎ

人はめったに来んけど、土と水と風の匂いをよう忘れず

自宅から 10 キロ離れた山里へ ほとんど毎日通勤し、汗を流している。

地元の郵便局を退職して 9 年、

自分のためにボランティア (だんだんくらぶ) をしながら

「奥の里」の「土いじり」がこじやんと面白い。

94 歳まで畑を這みながら野菜を作り子どもたちに食わしてくれたおふくろを

99 歳まで自宅で見取ってくれたうちの女将も

やっぱり土と水と風の匂いが好きという。

たった 20 アールの畑で 何を作るというのか

百姓の経験は 子どもの頃の手伝いくらい。

けんど、土をいじってみると 昔の畑を思い起こす

畑の耕ちかた、種の蒔きどき、肥のやり方、収穫の時期

すべては浅い記憶と まわりの百姓先輩の教えにすぎり

孫たちにも有機野菜を届けられる身分にのしあがった

もう菜の花が咲き  
始めました

しかし現実には 過疎と高齢化のこの集落 (8 戸) にも

イノシシ、猿、ハクビシン、イタチなどの生き物たちが

昼夜を問わず遊山に来てくれる

勝ち負けをあんまり気にしたら 腹が立つけんど……

けんど、今年こそはちっくとおすそ分けを戴こうと防護柵を積み重ねている。

そんな菜園生活のなかでこそ 自然の営みをいっぱい感じて

きょうもまたオーナーの横取りをたくらんでいる親愛なる女将とともに

「奥の里」へ軽トラを走らせるものずきがいる。

## 患者さんのタイミングに 合わせる医療の力

高知県立大学看護学部助教  
井上 正隆



平成24年の2月13～17日の5日間、近森病院の研修を通して、心疾患患者に対する周術期の看護やリハビリテーションについて、学ぶ機会を得ることができました。

とても印象に残ったのは、早ければ術当日より医師、看護師だけでなく、PT、OT、臨床工学技士、管理栄養士、MSWなど多くのスタッフが、タイミングを見はからいながら患者さんにかかわり、早期退院のみならず退院後の生活も見据えて、働きかけているチーム力のすばらしさでした。

術前から患者さんにかかわっているそれぞれの専門職種が各々院内PHSを持ち、必要に応じてコンサルテーションし連携することで、患者さんの状況に合わせて臨機応変に対応を変化させていく。カンファレンスの必要が

ないとさえ感じさせるその光景は、私にとってとても衝撃的でした。

「患者中心の医療」というのは、世界中の多くの病院で理念として掲げら

れていますが、「患者さんのタイミング」に合わせられることは、大きな医療の力であり、患者中心の医療を具現化したものだと感じました。

研修を振り返り、医療を支える「個々の力」と「チーム力」というふたつのキーワードが強く残りました。より多くの方々に近森病院のすばらしさを知って欲しいと感じています。

紙面をお借りして、今回の研修を実現させていただきました入江心臓血管外科部長を含め、対応くださったスタッフの方々に、深くお礼申し上げます。いのうえ まさたか

## 第1回黒潮整形外傷 カンファレンス 開催



久留米大学整形外科准教授の白濱正博先生



近森病院整形外科統括部長  
衣笠 清人

去る2012年3月17日(土)に当院管理棟3階大会議室において「黒潮整形外傷カンファレンス」をスタートさせました。これは地方で行う小研究会としてテーマを絞った症例検討会と特別講演を合わせて行い、同地域で医療に携わる整形外科医のレベルアップと診療に関する情報の共有を目的として以前から考えていたプランを実行したものです。

初回のテーマは①インプラント周辺骨折、②骨盤輪・寛骨臼骨折の二つを選び、講演は骨盤骨折の分野ではとても有名な久留米大学整形外科准教授の白濱正博先生にお願いしました。得てして単なる前座セッションになりがちな症例検討会にも各演題15分の時間を取り、ケースプレゼンターにも県内外から10名、全国的に著明なドクターにも数名加わっていただき約3時間のレベルの高いディスカッションが行えたと思います。

参加者数もドクター49名(院内ドクター8名含む)、コメディカル26名と初回としては十分であり、アンケートでもご好評をいただきました。最後にご協力いただいた関係者の皆様方に深く感謝の意を表します。

きぬがさ きよと

## リレーエッセイ

### さくらの季節



近森リハビリテーション病院  
4階西病棟看護師主任  
和田 絵美

4月と言えばスタートの季節。何か新しい事を始めるには、良い時期ですよね。人間は目標を持たないと、自覚的に前へ進むことが出来ないそうです。我が家も主人は長年お世話になった近森会を退職し(感謝!!)、新天地へ第一歩を踏み出すことが出来ましたし、子供たちも新しいスポーツを始めたり、それぞれ新たな目標へ向けスタートを切りました。私も仕事については日々精進で頑張っていますが…。

先日の健診で体重、腹囲の増加に留まらず、血圧まで高めになってき

ました。問診票の「運動をしていますか」という項目で「関心はあるが、今すぐしようと思わない」にチェックを付けて早何年。運動はしたいですけど、休日は家事やりたいことで運動まで頭も体も回りません。しかしその隣で、主人は運動を兼ねて歩いて出勤することも度々。「日常生活で運動を取り入れて行ったらいいやん!」はい、そのセリフ耳にタコが出来る程聞いています…。私も今年是一家の食生活を支える母親なので食生活の見直しと、近年あえて聞かないようにしていた運動も始めて健康に努めたいと思います。やはり健康第一ですからね! 皆さんは今年も良いスタートが切れましたか?

わだ えみ



# 学生時代の理想を いま仕事にできている幸せに 感謝…ハッピー！

## 建築物が好き！

地元の高知工科大学に進んだのは通学距離の近さというよりも、ニューヨークのツインタワーを思わせるドミトリー(寮)タワーやキャンパスのお洒落な感じに憧れたのがきっかけだった。幼い頃のネズミのおうちの出てくる絵本が印象に残っているためか、建築物には特別な興味を感じていた。

大学に入学してみると興味のあった建築をはじめ、デザインも土木も環境も多分野を、深くはないが広く学べることを知り、本当に目指したいものが見つかった段階で方向転換でき、工科大を選んでハッピー！と思えたという。

学部の勉強を進めるうち、いちばん好きだったデザインには「センスが要るから仕事にするのは難しい」と見切りをつけ、では仕事になにを選びたいかと改めて周りを見渡したところ…。

## 大好きな母の影響で病院の仕事に興味

看護師の母の帰りが毎晩遅いのは、抱えきれないほどの仕事に追われているためだった。が、大の仲良しの母の、忙しいけれどいきいきとした充実ぶりを見るにつけ、「これこそ自分がやりたい仕事ではないか」と、将来の方向へだんだん気分が盛り上がる。

そして在籍する社会システム工学科では、転倒、転落に関する卒論を書き、もっと深めたいと大学院にも進み、『夜



間の転倒・転落を防ぐための足元灯』についての修士論文を仕上げたのだった。

## 奇跡のような出会いで近森会へ就職

こうしていわゆる医療安全をめぐる研究を深めたあと、大学院修了と同時に近森会に入ることになるが、これまた仁美さんいわく、「奇跡のような出会い」で就職が決まり、しかも医療安全委員会に属するようになった。「学生時代に理想と思っていた仕事が、いままでできている幸せ」を感じつつ、しかも「これはどうでしょうか」と提案すれば応援してもらえる上司や同僚に恵まれて、「ホントにホントに嬉しいんです」という毎日なのだ。

そうそう、近森会への奇跡の出会いの話。高知女子大のマネジメントの講義に出席したとき、それ以前に病院見学を訪れていて挨拶したことのある松永智香看護部長に声をかけてもらい、それがきっかけで、「将来自分のやりたい仕事」について部長に相談。リスクマネージャーに類する仕事なら近森会で実現できる筈だと背中を押してもらえたのが直接の就職のきっかけになったのだった。

## 励みとなる近森会 MVP の受賞

大学院で学んでいるとき、看護師の母親が一年遅れでやはり同じ研究室で学ぶことになりゼミで机を並べたのが楽しい思い出になっているそうだ。いかにも、この頑張り屋の母親に育てられた娘らしく、学生時代の研究を実地の仕事につなげて、しかもその仕事を楽しんでいるのだから、こんな羨ましい話はないだろう。

平成20年の近森会 MVP で表彰されたのをご記憶だろうか。医療安全パトロール報告書『病棟環境通信』を提案し発行を軌道に乗せたことが評価されたものだった。医療安全委員会で話し合われた「病棟ラウンド結果を病棟に返していこう！」という結論を、具体化したものだった。

## 貴重な工学の視点を評価



「滑り台で嬉しそうにしてるのが恥ずかしいです～」と嬉しそうな仁美ちゃん

医療安全委員会の山崎正博委員長は「工学の視点からのアドバイスが貴重」と高く評価する。さらに、月いちど開かれているチカモリシネマクラブの事務局として、「細やかな手配に抜かりがない」と、その裏方の心配りを喜んでいる。

趣味といえるのかどうか、「田舎の出身なので十数人の仲良しグループがいて、結婚式の余興に本気で取り組む」ことがかなりのストレス発散になっているようだ。ただし、自分の番はなかなか巡ってきそうにはないらしい。

医療安全も診療情報管理の仕事も、いずれも自分が本当に必要と思える意義を見だし、それを嬉々としてやれているのだから、特別な趣味は要らないし、結婚式の主役を当面望まないのも無理はない…のだろう、きっと。

## 編集室通信

東日本大震災からはや一年が経った。やっとガレキの処理のメドが付き始めたとは何とも驚きを通り越し怒りがこみ上げてくる。これではまるで最前線のことを全く理解しないで参謀本部がロクなロジスティクス(兵站)をせずに敗れた太平洋戦争と同じではないか。今の政治と行政のありようは目をおおうばかりである。もっとも、今の政権を選んだのは国民であるので自業自得とはこのことかも知れない。こういうのを老いの操り言というべきか。かえる

## お知らせ

### ①第95回地域医療講演会

「どう動く、これからの精神科医療」

平成 24 年 4 月 20 日 (金) 18:00 ~ 19:20

場所: 近森病院管理棟 3 階会議室

1) 「援護寮まち」の 13 年間で振り返って  
～社会復帰施設が果たしてきた役割～

講師: 高知メンタルリハビリテーションセンター

援護寮まち施設長 杉村 多代

2) 「精神科医療の展望」

講師: 日本精神科看護技術協会

専務理事 仲野栄先生

### ②第96回地域医療講演会

クリニカルパス特別講演会

平成 24 年 4 月 21 日 (土) 9:00 ~ 12:00

会場: 近森病院管理棟 3 階会議室

### 2012年2月の診療数 システム管理室

#### 近森会グループ

外来患者数	16,725 人
新入院患者数	803 人
退院患者数	776 人

#### 近森病院

平均在院日数	14.85 日
地域医療支援病院紹介率	86.58 %
救急車搬入件数	351 件
うち入院件数	212 件
手術件数	474 件
うち手術室実施	284 件
→うち全身麻酔件数	161 件

●平成 24 年 2 月度県外出張件数 ●  
件数 65 件 延べ人数 128 人

## 図書室便り (2012年2月受入分)

・OS NOW Instruction 整形外科手術の新標準 21 足部疾患の手術 QOL を保つ足 / 岩本幸英 (担当編集)  
・泌尿器科・病理・放射線科 腎盂・尿管・膀胱癌取扱い規約 2011 年 4 月 第 1 版 / 日本泌尿器科学会 (他編集)  
・臨床ナースのための Basic & Standard 形成外科・美容外科看護の知識と実際 / 尾崎峰 (編著)  
・ナースのための新形成外科学 / 鬼塚卓弥 (編集)  
《別冊・増刊号》

・別冊 NHK きょうの健康 股関節の痛み 変形性股関節症の治療がよくわかる / 杉山肇 (総監修)  
・別冊 医学のあゆみ 向精神薬—最新の動向 / 野村総一郎 (他編集)  
・BRAIN NURSING 2012 年春季増刊 術前術後の看護・治療の流れがひと目でわかる 脳神経外科疾患別看護マニュアル / 田村綾子 (監修)  
《視聴覚資料》  
・VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery Vol.18No.4 / 永田泉 (他監修)